

住民とのワークショップ scene-5

災いをやり過ごす知恵、災害文化の存在を指摘。

抜本的解決策は無いことを確認しつつも、災害文化によって地域が継続した事実に見いださせる。

災害文化の風化、行政への過剰な依存体質について現状認識させる。

災いをやり過ごす知恵の積極的利用と継承のみが取り得る手段と自覚させる。

片田：今ここで知恵を風化させてしまったら、子・孫は災いをやり過ごす知恵を知らぬまま、土砂災害の危険があるこの地に住み続けることになるのです。

住民：!!!